

TRANSITION TO HEALTH (041)

乳がんの予防対策について ⑥

～ 医師・メディアは“乳がんと食事”に沈黙！？ ～

前々号（平成27年8月）では、マンモグラフィの「**癌の見落とし**」「**過剰診断**」という不利益、欧米での“推奨せず”という「**不要論**」「**廃止勧告**」等についてお話しました。前号（9月）では、マンモグラフィは**記録的短時間集中**（医療放射線）**被曝**であること、閉経前の**日本人女性**には**不向き**であること、この被曝により**DNA**の二重螺旋構造が**破壊**されうること、また、放射線被曝により**癌遺伝子が活性化**されたり、**癌抑制遺伝子が不活化**されることがあり、そのために乳癌が誘発されることがあるという「**マンモグラフィによる乳癌の発生**」の可能性についてお話しました。

有名芸能人に乳がん、右乳房全摘出手術を受ける

先月（平成27年9月）、元女子プロレスラーの有名芸能人北斗晶さん（48歳）が乳癌で右乳房の全摘出手術を受けたことが報じられました。彼女のブログ（右）によれば、北斗さんは毎年秋に乳がん検診と婦人科検診を受けており、昨年（平成26年）秋の検診（マンモグラフィ、超音波検査）では異常は指摘されなかったのだが、今年（平成27年）の年頭には、うつ伏せ状態で右胸にチクッとする痛みを感じていたという。4月には右乳頭の位置異常（偏位）を自覚し、夏には右胸にチリチリする痛みを感じ、精密検査の結果、乳癌と診断されたのだという（7月7日）。各局テレビの情報番組では、複数の現役の乳腺外科医がコメンテーターとして登場し、また、インタビューなどに答えていた。そこで強調されていたことは、（欧米では今や**推奨されなくなりつつある**）「**マンモグラフィ**検診の重要性」と、癌検診は万全ではないという理由での「**自己触診**の重要性」であった。後者の「**自己触診**の重要性」については、私も大いに賛成である。



急速に増大する乳がんの「中間期癌」の発生理由は・・・？

北斗さんのように、前の検診で異常を指摘されず、その後1年以内に臨床症状が出て発見される癌のことを「**中間期癌**」と呼んでいるようですが、実は私自身も経験があります。当協会の超音波検査で“異常なし”と判定を下した、その5か月後に症状が出て、8か月後には手術、その後の治療の甲斐もなく亡くなられた20代後半の女性が居りました。超音波画像では乳癌の“所見なし”と、第三者機関（大学病院）に証明していただけたのですが、残念な結果でした。

私のこの『健康通信しずおか』を読まれてきた皆さんには、もうお分かりのことでしょう。このような乳癌の「**中間期癌**」にみられる「**短期間の急激な増殖**」の理由は、そうです！『**牛乳・乳製品・肉（赤身肉・加工肉）の過剰摂取**』に他なりません。（『健康通信しずおか No.31 2014年12月“牛乳・乳製品と発癌性”について①』に詳述）

癌の原因は「**誤った生活習慣の継続**」であり「**超高齢化**」ではない

公益財団法人 静岡県産業労働福祉協会

〒421-0113 静岡市駿河区下川原6丁目8番1号

TEL054(258)4855(代) FAX054(258)4403

http://www.kenshin-shizuoka.net

E-mail:info@kenshin-shizuoka.net

